

(様式1)

# 自己評価表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 37

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	<p>基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成        -思いやる心 自律の心 挑戦する心-</p> <p>『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進</li> <li>2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進</li> <li>3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実</li> <li>4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進</li> <li>5 地域を愛し行動できる人間の育成（ボランティア活動の推進）</li> </ol>
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校 経営	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの内容を充実させることにより、教育活動の情報を発信する。	B	地域住民の方々からの評価はかなりよくなったが、保護者の方から「各種たより等が家庭に届いていない」との話もある。	保護者に毎月始めに「たより」が届くことを知っていただき、届かない場合は子どもに催促していただくようお願いしていきたい。
	保護者の意見反映	PTA総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	D	PTA総会への出席率向上のため、総会前に講演と進路ガイダンスを開催したが、昨年度の24%から更に減少した。 保護者懇談会への出席率はここ数年上昇している。	PTA総会への出席を、各地区毎にPTA役員から促していただく。 また、PTA役員の方々には、「PTA活動活性化対策案」を考えていただいている。来年度のPTA活動に反映していきたい。
経営	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数3冊を目指す。	B	年間一人当たりの図書貸出し冊数、一日当たりの図書館利用者数は共に目標値に達している。 図書館内の特設コーナーの設置や、掲示物の作成などの工夫が効果的であった。	図書館から発信する情報について、生徒の評価が他に比べ充分ではなかった。発信する情報内容、発信の方法等検討し、継続的に読書啓発活動を行っていく。 限られた予算の中で図書館を利用する生徒の多様なニーズに応えられるよう、整備を進めていきたい。
学習 指導	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。 相互授業研修期間中、一人年間5回以上の授業を参観し、授業力向上に努める。	B	アンケート結果はやや評価が下がっているが、授業の理解度については0.1ポイント上昇している。 授業が進むにつれて理解度に差が開き、そこから意欲の差が開いているようである。 相互授業研修については、学校訪問研修等もあり、授業力向上に成果が見られた。	今年度研究してきた、観点別学習評価をさらに研究して授業改善につなげていきたい。 また、各教科で結果を分析して、今後の改善方策を検討・実践するとともに、基礎学力の向上に努めたい。 相互授業研修については、今後も継続して取り組みたい。
	基礎学力の向上	定期的な家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。	B	基礎学力の向上、家庭学習の定着は永年の課題であるが、アンケート結果は横ばい、保護者は0.1ポイント向上と、一定の評価が得られている。 一日当たりの家庭学習時間(平日)も51分と若干向上した。	国語、数学、英語のエスタブリッシュメントテストを通じた継続的な学習であるとか、家庭と連携した家庭学習の定着について粘り強く取り組んでいきたい。

工業	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。ジュニアマイスターの認定（ゴールド・シルバー15人以上）を目指す。	A	昨年度は5.6であったが、本年度は6.1個で達成できた。また、ジュニアマイスター顕彰についてもゴールド11人、シルバー15人と目標を達成できた。	保護者や地域住民の方々に対して、工業教育に関する社会人の講演や講義の実施についてあまり知られていないようであるので、ホームページや八工日より等を活用して周知していきたい。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。 地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。 活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	ものづくりコンテストは、測量部門が四国大会出場、旋盤・電気工事部門が3位入賞し目標を達成することができた。出前授業、マウンテンバイクフェスタ、夏休み親子でロボット工作教室、ものづくり教室を実施した。また、愛媛県高等学校工業科生徒研究発表会では土木科が最優秀賞、電気技術科が優秀賞を受賞した。	生徒はものづくりに対して積極的に取り組んでおり、満足できる結果も収めることができた。今後もさらに良い結果が得られるように継続して指導していきたい。ものづくり教室においては本年度は1日での実施としたため、80名以上の希望者となり、お断りする中学校もあった。講座を増やすことを検討したい。
特別	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	B	夏休みまでのボランティアに参加する人数はやや低調であったが、家庭クラブを中心に行っている独居老人へのバラプレゼントや保育園との交流などの活動が地域に根付いており、保護者や地域からの評価は高い。	教室のボランティア募集コーナーは一定の効果を上げている。内容等を工夫してさらに参加者の増加を期待したい。また、地域を担う高校生育成事業でのボランティア経験がその後のボランティア活動へと広がるよう啓発していきたい。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。	B	委員会は1学期に4回、2学期に6回、3学期に2回実施した。生徒会主催行事としてバラ展、体育祭、工業祭、各学期のクラスマッチを実施し充実した学校行事が実施できた。	各行事の再検討を行い、計画的に委員会を実施して早めに取りかかれるようにする。また、生徒一人一人が参加意識を持てるような委員会や行事を目指して生徒会執行部で企画していくよう努力していきたい。
活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	B	4月現在での部活動加入率は、全体で99.6%である。（1・2年生は100%、3年生98%、兼部者12名）ほとんどの生徒が部活動に入部し活動している。2学期以降転部した生徒はいるがほとんどの生徒が活動できている。	生徒や地域の評価を見ると意欲的に取り組んでいるといえる。学習と部活動の両立ができているという評価について、生徒は高いレベルでの成果を求めていることがわかる。今後一層、学習と部活動の両立への配慮が求められる。
生徒	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。 頭髪指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。	B	2月末の遅刻数は、1年12人・16回（前年比+8回）、2年4人・5回（同-8回）、3年11人・16回（同+0回）で、昨年度同時期と比較して変化はない。頭髪・服装については、校内での大きな乱れは見られない。	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底、及び5分前登校の奨励をとおして、自覚を促していきたい。また、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	指導	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。	B	一部気になる生徒はいるが、教職員・生徒の達成率は高く、校内での挨拶は良好である。校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れていると考える。校外での挨拶や交通ルール・マナーについては、地域住民の評価が依然として低く、一部の生徒について十分な成果は現れていないと思われる。

人 権	人権啓発の推進	「人権だより」やその他の啓発資料を通して、人権尊重の意識を高める。 「人権だより」を年10回発行する。	B	生徒の人権意識については前回よりも12%増である。また、保護者の回答も4%増であり、良い結果が得られた。人権だよりの内容や、ホームルーム活動の資料の精選などを行ったことが結果につながったと思われる。今後も続けていきたい。	今年度の全校朝礼での人権委員の発表は、現地研修に行きそれを発表した。また、人権講演会にも参加し、積極的に活動を行った。人権委員の負担が多く例年行ってきたことを継続することが困難なこともあったが、人権学習の良い機会があれば、通年行っていることも変化させ取り組んでいきたい。
	教育	いじめをなくする取組	いじめの生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施する。	B	年に2回（5月、11月）いじめに関するアンケートを実施した。いじめられたと答えた生徒の年間の平均値は0.6%であった。「悩み事を先生に相談しやすいか」の生徒の回答に関して達成率が70%弱であり、教師が期待している程、生徒は相談しようと思っていないのかもしれない。
進 路	就職指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	B	職場見学や応募前職場見学、職業ガイダンス、インターンシップ、SPI対策講座、夏期実力養成講座、講話等の行事も予定通り実施され、職業観、勤労観の育成と基礎学力の向上を図る事ができた。 1次合格率は82%と昨年度の76%から向上した。また、就職希望者全員が内定した。	職場見学、インターンシップ、体験発表等を通して職業観、勤労観の醸成を更に図る。来年度の就職も、今年度並の厳しさが予想されるため、日頃から就職に関する意識の向上に努めるとともに、面接対策、模擬試験、適性検査、夏期実力養成講座、補習等の充実を図り、1次内定率の向上を目指す。
	指 導	進学指導の充実	大学・専門学校などへの第1希望合格率90%以上を目指す。	B	模擬試験、進学説明会、夏期進学補習、放課後補習などを実施し、進学に対する意識付けと学力の向上ができた。 第1希望合格率は97%で目標を達成した。
学 校 保 健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	健康観察を継続し、欠席理由の把握、感染症予防の徹底を図るとともに、基本的生活習慣の確立を目指した。健康管理や衛生管理について情報発信を行い、家庭との連携も深めることができ、出席停止者は減少した。	課題は冬の感染症予防である。引き続き基本的生活習慣の確立を目指し、生徒自らが考えて行動できるように、保健だよりや掲示物の内容を工夫し、生徒保健委員会活動を通じた啓発活動について検討し、実践していきたい。
学 校 安 全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	毎年、少しずつではあるが達成率は上昇している。特に、昨年度より非常変災（地震、津波、放射性物質）発生時の対応意識は着実に向上している。 アンケートによる評価は、いずれの項目も昨年度より向上している。	達成率100%を目指して、今後も生徒・教職員の意識向上に向けて努力を継続させる。
学 校	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。	B	校舎、教室の美化に心掛け整理整頓ができた。	校内美化、整頓の意識を持ちより良い環境になるよう目指していきたい。
行 政	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。	B	昨年度よりも、達成率が上昇しているので、引き続き丁寧な接遇を心掛けたい。	校内研修等を行い、より丁寧な窓口・電話対応に努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。